

# 初芝富田林

学校動画を公式HP  
「shigaku.net」で  
公開中!



## 「楽しい!」「面白い!」を生み出す 5教科のプロジェクトが活性化

### 英語科



▲実践的な英語力を高めるため開設された「English Room」は、毎日放課後に開放。2020年度からはネイティブ教員が常駐し、曜日により、高3対象のライティング指導、全学年対象のテーマ別英会話トレーニングなどを実施。「2021年度に新設する、グローバル教育と受験指導を両立させる『グローバル特進探究コース(G特)』の生徒にも、大いに活用してほしいと思います」(英語科・東野佳敏先生)

### 理科



▲「サイエンスルーム」において、データサイエンス部と連携した実験教室や、「科学の甲子園」「大阪大学SEEDS」などへの参加を見せた取り組みを展開。「他校生徒との交流や大学の先生方と触れ、視野を広げてほしい」という思いで始めました。理科に対する興味喚起を目的に週1回配信している「科学ニュース」は、2019年度末から、生徒が疑問や質問を書き込めるコメント欄を設けたことで、活性化しています」(理科・川崎稔子先生)



### 国語科

▲希望者対象だったピリオパトルを、2019年度からは全員参加の取り組みとして学年ごとに実施。高1の大会で優勝した生徒は全国大会でベスト8に、高2の優勝者は強者が集まる西日本大会で準優勝に輝いた。「2020年度は好きな作家を選んで作品を読み、その作家に寄せ書きをする『オーサービジット』にも参加します。本に親しみを持てるようになるだけでなく、発表する力や緊張に打ち勝つ精神力を得る機会にもなっています」(国語科・前 富子先生)

### 数学科



▶数学科は放課後に、数学が得意な生徒を対象に発展的な問題などにチャレンジする「数楽研究会」と、苦手な中学生を中心に教員が寺子屋形式で指導する「Math Friends+」という2つの勉強会を行っている。「受け身ではなく、攻めの姿勢で勉強に取り組めるようになってほしい」という思いから企画しました。もっと輪を広げたいです」(数学科・和田直也先生)

### 社会科



▲観光資源のアピール力を競う校外の取り組み「観光甲子園」(写真)への参加を機に発足したという『社会の探究教室』。週3回、「地理」「世界遺産」などジャンルごとにグループを作り、各分野の検定へのチャレンジを見せた勉強に取り組む。「興味のあることを突き詰めて調べる経験は、大学での学びや将来にも活きるはず。来年以降はフィールドワークも実施する予定です」(社会科・浦上貴之先生)

## AI型オンライン教材と『はつとんゼミ』で 生徒一人ひとりの意欲・学力を着実に伸ばす



▲英語・数学でAI型オンライン教材を導入。予習・復習に活用できるほか、個々の習熟度を分析し、最適な出題をするため、基礎を徹底しながら、着実に英語の4技能・数学の応用力を磨くことができる。「家庭学習での活用につなげるべく授業で取り入れています。正答率などを競い合いながら意欲的に取り組んでいますね。データから生徒のつまづいている箇所がわかるため、きめ細かいサポートが可能となります」(数学科・和田直也先生)

▶2019年、中3~高3を対象にスタートした、放課後7~8時間目に学内で開講されている『はつとんゼミ』。有名大手予備校の経験豊富な講師陣による授業で、大学入学共通テストや国立大学二次試験に必要な力を養う。



▶コロナ禍におけるオンライン授業を通じて、本当に行きたいと思える大学に行くための学力と社会で通用する力を身につけるための手段としての、アダプティブ・ラーニングの必要性をあらためて痛感したという平井校長。「背景知識を広げ、論理的思考力を鍛えるツールとしてICTを活用し、さらなる推進に力を注ぎたい」



## “学びの選択”ができる環境で意欲を高め 大学進学と将来につながる主体性を育む

### TOPIC★

### オンライン立会演説会により 生徒会の新役員を選出!

平井校長の「明るく楽しい進学校にしたい」との思いから、2019年秋、開校以来初となる生徒会が発足。文化祭実行委員会としての活動や朝のあいさつ運動、地域イベントでのボランティア活動などに取り組みました。2020年7月には高校生徒会の新役員選出に向けたオンライン立会演説会を実施し、8月から新メンバーによる活動がスタートしています。秋には中学生徒会のオンライン立会演説会も行う予定。今後の活躍が楽しみです。



勉強会、英語科のネイティブ教員による指導、理科の『サイエンスルーム』における活動、社会科の『社会の探究教室』などが行われています。「校内予備校『はつとんゼミ』を含め、放課後の取り組みはすべてオプションです。多彩な学びの選択肢の中から、1つでも2つでもよいので興味を持つてほしいと思います。そうした、探究してほしいと思います。そうした、まさに個々の興味・関心に基づいたアダプティブ・ラーニングを通して、教科横断的な背景知識を蓄積することにも、自律学習の姿勢につなげることができればと考えています」(平井校長)

2 018年より大胆な学校改革に取り組んできた同校。生徒一人ひとりの個性を開花させ、本当に行きたい大学に合格できる学力と、未来を切り拓く力を培える、明るく楽しい進学校への進化を、超進学校化」と銘打ち、さまざまな取り組みを展開してきました。改革初年度より大学合格実績を大きく伸ばしており、注目を集めています。その改革において当初より重視してきたことの1つが、個々の理解度や状況に応じた学習内容を提供する、『アダプティブ・ラーニング』(個別最適学習)の推進です。その一環として2020年度からは、1人1台のタブレット端末を所有し、英語・数学の2教科において、個々の理解度を深めるための問題を分析・出題するAI型オンライン教材を活用した学習が本格的に始動しました。「自宅でも学べるAI型オンライン教材は自律学習姿勢を養うことにつながるものですが、自ら学びに向かう力、すなわち主体性が求められます。そこで本校では、学びに対する意欲や自信を高めることを目的とし、5教科の教員の企画・立案による『超進学校化プロジェクト』を進めています」(平井正朗校長) その内容は実にバリエーション豊か。国語科ではピリオパトルに取り組みほか、放課後には、数学科の